

2023年11月8日(水)第二水曜祈祷会

ヨナ書4章1～11節

『神』

【ヨナ書1～3章の概説】 *BC750年、北イスラエルで預言者として活躍していた(Ⅱ列王記 14:25)。

- ①ヨナは、ニネベへの宣教命令を受けたにも関わらず、()、タルシシュへ逃れた。
- ②神は、ヨナの不従順を戒めるために嵐を送り、人々は不本意ながらヨナを()へ投げ込む。
- ③海に投げ入れられたヨナは、魚に飲み込まれ、腹の中で神に()と祈りを捧げる。
- ④再びヨナは、ニネベ宣教に遣わされ、ニネベの町は悔い改め、神は裁きを()。

【観察と黙想】

1. 「ヨナの怒り」(1～4節) *ヨナの敵国ニネベでの宣教は大成功に終わった。

- ①ヨナを非常に不愉快にしたのは何が原因でしたか。
→
- ②2節の「このこと」とはどういうことですか。
→
- ③主は、自分の不満をぶつけるヨナの祈りにどのように答えられましたか。
→

2. 「ヨナと唐胡麻」(5～8節) *「唐胡麻」は、別訳で「ひょうたん」のこと。

- ①ヨナは、都の東の方に座って、都の中で何が起こることを期待していましたか。
→
- ②神である主は、ヨナのためにどのようなものを備えられましたか。
→
- ③神である主は、ヨナに何を教えようとされたのですか。
→

3. 「主のみこころ」(9～11節) *神である主は、ヨナにご自身のみこころを示された。

- ①ヨナはどうして自分が怒るのは当然だと言ったのですか。
→
- ②神である主は、どうしてニネベを惜しまれたのですか。
→

【適用と分かち合い】

- ①私たちが神に怒り(不満)をぶつけるのは、どのようなときですか。
- ②「生きているより死んだほうがまし」とは、ヨナのどんな気持ちを表していますか。
- ③神である主が、「大きな都ニネベ」を惜しまれたということは何を表していますか。
- ④神である主は、私たちがどのような価値観(使命感)を持つことを期待されていますか。